

審議対象資料● 現行運営規定と運営規程変更案の対比表

		現行規定		変更案
			第 1 章 総則	
			第 1 条 目的	この規程は、一般社団法人札幌青年会議所（以下「本会議所」という。）定款（以下「定款」という。）第 4 8 条に基づき、本会議所の円滑な運営と総意の結集を容易ならしめる目的で規定する。
			第 2 条 規程の変更	この規程の変更は、理事会の決議によって行い、総会に報告する。
			第 3 条 運営の原則	1 本会議所は、特定の個人又は法人その他の団体の利益を目的としてその事業を行わない。
				2 本会議所は、これを特定の政党のために利用しない。
第 1 章 役員の任務			第 2 章 役員の職務	
第 1 条		理事長は定款に定められた任務のほかに、本会を代表して対外的関係団体に所属し、その会議ならびに会合等に出席するものとする。	第 4 条 理事長	理事長は定款に定められた職務のほかに、次の各号の職務を行う。 （１） 本会議所を代表して、対外的な会議、会合、式典等に出席する。 （２） 本会議所を代表して、関係諸団体の来訪者に対する折衝及び対応を行う。 （３） 副理事長、専務理事の職務範囲を特定し、その権限を定める。 （４） 常任理事、理事の職務範囲を特定し、その権限を定める。 （５） 議長、委員長の職務範囲を特定し、その権限を定める。 （６） その他、当該年度の本会議所の運営原則を策定する。
第 2 条		副理事長は定款に定められた任務のほかに各事業活動を調整し、また本会の運営を容易ならしむよう努力する。	第 5 条 副理事長	副理事長は定款に定められた職務のほかに、第 4 条 1 項（３）号に基づき、職務を分掌する。
第 3 条		専務理事は定款に定められた任務のほかに所務ならびに事務局を統轄する。	第 6 条 専務理事	専務理事は定款に定められた職務のほかに、次の各号の職務を行う。 （１） 本会議所の事務局及び会計の管理並びに財産の保管を行う。 （２） 第 4 条 1 項（３）号に基づき、職務を分掌する。
第 4 条	1	常任理事および理事は定款に定められた任務のほかに本会の運営に関して責任を有し、職務上これを分担して、それぞれの職務を担当する。	第 7 条 常任理事 理事	常任理事及び理事は定款に定められた職務のほかに、第 4 条 1 項（４）号に基づき、職務を分掌する。
	2	常任理事は本会の運営事業の遂行等に関し、委員長に適切な指示を与え委員会活動を推進する。		（削除）
	3	委員長は年当初に委員会の事業計画案、予算案を作成し理事会および総会で承認された事業を実施する。		（第 2 1 条に規定）
第 5 条		監事は定款に定められた任務のほかに、本会の予算、事業等承認された事項が定款に基づき正確に行われているかを監査し、誤りがあればただちに理事会に報告しなければならない。	第 8 条 監事	監事は定款に定められた職務のほかに、本会議所の予算、事業等、総会又は理事会において承認された事項が定款に基づき正確に行われているかを監査し、誤りがあればただちに理事会に報告しなければならない。
			第 3 章 総会	
			第 9 条 総会	総会の議長は、定款第 1 7 条に基づき、理事長若しくは正会員のうち理事長の指名した者がこれにあたる。
			第 1 0 条 定足数の確認	1 議長は、総会の開会後直ちに定足数の確認をし、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席していることをもって、総会の成立を宣言する。
				2 総会の開始時刻より相当の時間を経ても、なお定足数に達しない場合には、議長は開始時刻の遅延又は流会を宣告することができる。

				3	総会中に定足数を欠く恐れがある場合には、議長は休憩又は流会を宣告することができる。
			第 1 1 条 議事	1	総会は議長が進行し、審議議案等の上程は、議長に指名された正会員が行う。
				2	発言しようとする者は挙手をして、議長の許可を得て発言しなければならない。
				3	議長は、総会の秩序を維持し、議事を整理する。
				4	議長は、発言が本会議所の品位を傷つけ、又は議事を妨害する恐れがあると認めた場合には、発言者に注意し、発言者が注意に従わない場合には、発言を禁止することができる。
				5	議長は、その命令に従わない者その他総会の秩序を乱す者を退場させることができる。
				6	動議は、総会において、動議提出者のほかに 1 名以上の議決権を有する正会員の賛成指示がなければ提出することはできない。
			第 1 2 条 理事の説明 義務		<p>理事は、総会において、正会員から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について必要な説明をしなければならない。ただし、当該事項が総会の目的である事項に関しないものである場合、その他説明をすることにより正会員共同の利益を著しく害する場合、その他下記の各号に該当する場合には、この限りではない。</p> <p>(1) 当該事項が総会の目的である事項に関しないものである場合</p> <p>(2) 説明をすることにより正会員共同の利益を著しく害する場合</p> <p>(3) 正会員が説明を求めた事項について説明をするために調査をすることが必要である場合</p> <p>(4) 正会員が説明を求めた事項について説明をすることにより当会議所その他の者（当該正会員を除く）の権利を侵害することとなる場合</p> <p>(5) 正会員が当該総会において実質的に同一の事項について繰り返して説明を求める場合</p> <p>(6) 前各号に定めるほか、正会員が説明を求めた事項について説明をしないことにつき正当な理由がある場合</p>
			第 1 3 条 決議	1	議長は決議をするときはその旨を告げる。
				2	議長が決議を宣言した後は議場を封鎖し、一切の入退室を禁止する。
				3	議事の途中で入退室があった場合、議長は、議場を封鎖した後、議事定足数を確認する。
				4	<p>決議は次の方法により、最も相応しい方法をもって行う。</p> <p>(1) 拍手</p> <p>(2) 挙手</p> <p>(3) 起立</p> <p>(4) 記名投票</p> <p>(5) 無記名投票</p>
				5	決議は、賛成をとり、次に反対をとり、最後に棄権をとる。
				6	決議は、定款第 1 9 条第 2 項に規定されているものを除き、出席した正会員の議決権の過半数をもって行い、可否同数の場合には議長が決する。
第 2 章 理事会			第 4 章 理事会、三役 会及び常任 理事会		
第 6 条		理事会は定款第 28 条に規定されたほか、各委員会の事業、予算並びに会員の資格の審査決定、その他本会の重要議案の決定に当たり責任をもってこれを審議し、本会の運営にあたる。	第 1 4 条 理事会の審 議事項		理事会は定款第 3 1 条に規定されたほか、各委員会の事業、予算並びに会員の資格の審査決定、その他本会議所の重要議案の決定にあたり責任をもってこれを審議し、本会議所の運営にあたる。
			第 1 5 条 理事会の議 長の選任	1	理事会の議長は定款第 3 4 条に従い、理事長がこれにあたる。

				2	前項の規定に関わらず、理事長が決議について特別な利害関係を有するときは、副理事長がこれにあたる。
			第16条 理事会の定 足数	1	議長は、理事会の開会后直ちに定足数の確認をし、総理事の3分の2以上に当たる理事が出席していることをもって、理事会が成立する。
				2	理事会の開始時刻より相当の時間を経ても、なお定足数に達しない場合には、議長は開始時刻の遅延又は流会を宣告することができる。
				3	理事会中に定足数を欠く恐れがある場合には、議長は休憩又は流会を宣告することができる。
			第17条 理事会の議 事	1	理事会は議長が進行する。
				2	発言しようとする者は挙手をして、議長の許可を得て発言しなければならない。
				3	議長は、理事会の秩序を維持し、議事を整理する。
				4	議長は、発言が本会議所の品位を傷つけ、又は議事を妨害する恐れがあると認めた場合には、発言者に注意し、発言者が注意に従わない場合には、発言を禁止することができる。
				5	議長は、その命令に従わない者その他理事会の秩序を乱す者を退場させることができる。
				6	動議は、理事会において、動議提出者のほかに1名以上の議決権を有する理事の賛成指示がなければ提出することはできない。
			第18条 理事会の決 議	1	理事会の決議は審議議案上程時に行う。
				2	議長は、決議をするときは、その旨を告げる。
				3	議長が決議を宣言した後は議場を封鎖し、一切の入退室を禁止する。
				4	議事の途中で入退室があった場合、議長は、議場を封鎖した後、議事定足数を確認する。
				5	決議は次の方法により、最も相応しい方法をもって行う。 (1) 拍手 (2) 挙手 (3) 起立 (4) 記名投票 (5) 無記名投票
				6	決議は、賛成をとり、次に反対をとり、最後に棄権をとる。
				7	決議は、定款第35条第2項に規定されているものを除き、出席した理事の議決権の過半数をもって行い、可否同数の場合には議長が決する。
第7条		理事会の円滑な運営をはかるため常任理事会を設けることができ、常任理事会は次の事項を審議する。	第19条 三役会及び 常任理事会 の設置	1	理事会の円滑な運営をはかるため、この規程に基づき、三役会及び常任理事会を設けることができる。
	1	理事会に提出すべき議案。			
	2	総会、理事会の決議事項以外の事項で本会の運営に あたり重要な事項。			
	3	理事会からの委任事項。			

				2	三役会は次の各号に定める事項を協議する。 (1) 理事会及び常任理事会に提出すべき議案 (2) 総会、理事会の決議事項以外の事項で本会議所の運営にあたり重要な事項 (3) 理事会からの委任事項
				3	常任理事会は次の各号に定める事項を協議する。 (1) 理事会に提出すべき議案 (2) 総会、理事会の決議事項以外の事項で本会議所の運営にあたり重要な事項 (3) 理事会からの委任事項
第8条	1	常任理事会は理事長、副理事長、専務理事および常任理事をもって構成し、年度中に6回以上開催する。	第20条 三役会及び常任理事会の構成	1	三役会は理事長、副理事長、専務理事をもって構成する。
	2	常任理事会は理事長がこれを招集し、理事長が議長となる。		2	常任理事会は理事長、副理事長、専務理事及び常任理事をもって構成する。
	3	常任理事会の定足数は構成員の3分の2とする。		3	三役会及び常任理事会は理事長がこれを招集し、理事長が議長となる。
	4	議事は、出席構成員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。		4	三役会及び常任理事会の定足数は構成員の3分の2とする。
	5	直前理事長、監事および顧問は、常任理事会に出席し意見を述べることができる。但し議決権を有しない。		5	三役会及び常任理事会で採決をとる必要がある場合には、出席構成員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。6 直前理事長、監事、顧問及びその他理事長が許可した正会員は、三役会及び常任理事会に出席し意見を述べることができる。ただし採決における議決権を有しない。
第3章 例会			第5章 例会		
第9条		例会は原則として毎月2回開催する。 第一例会 第一火曜日 午後6時～8時まで 第二例会 第三火曜日 午後6時～8時まで <u>但し、正副理事長の合議により日時の変更ができる。</u>			(削除)
第10条		正会員は例会に出席する義務を負う。	第21条 出席義務		正会員は例会に出席する義務を負う。
第11条		例会に欠席した場合は、下記のとおり特別負担金(ニコニコ金)を徴収する。 欠席 500円 年2回会費と同時に徴収する。	第21条 特別負担金の徴収	1	例会に欠席した場合は、下記のとおり特別負担金(ニコニコ金)を徴収する。 欠席1回につき 500円 年2回会費と同時に徴収する。
第12条		下記各項の該当者は、当該月(但し、例会1回のみ)の出席補填とする。		2	前項の規定に関わらず、国際青年会議所、日本青年会議所、北海道地区協議会等の行事に出席した場合であって、自ら会費徴収手続前に専務理事に対して申請を行い専務理事によって公務による欠席と認められた場合には、特別負担金(ニコニコ金)を徴収しない。
	1	他JC例会に出席した場合。 <u>但し、アテンダンスカードを使用して当該JCが、確認サインをして札幌JCで受理した場合。</u>			
	2	国際青年会議所、日本青年会議所、北海道地区協議会、ブロック協議会および全国・地区会員大会、認承証伝達式、その他記念式典JC等公式行事に出席した場合。			
	3	理事会、所属委員会ならびに札幌JC行事に出席した場合。			
第4章 委員会			第6章 室及び委員会		
第13条		定款第37条に基づき本会に委員会を設置する。	第23条 室、委員会	1	定款第38条に基づき本会議所に室及び委員会を設置する。また、必要に応じて室に所属しない会議を設置することができる。

				2	室及び委員会の名称、主たる業務、数は理事長がこれを定める。
				3	室に属しない会議の名称（会議体又は塾）、主たる業務、数は理事長がこれを定める。
第14条		委員会の活動分掌は、当該年度の総会において承認された事業を行うものとする。 但し、上記以外の事業については、理事会の承認を得て実施する。	第24条 事業		委員会は総会において承認された年間事業計画に従って事業を行う。なお、個々の事業は、理事会の承認を得た事業計画書に従って実施しなければならない。
第15条		理事長、副理事長、専務理事、常任理事、監事は、原則として委員会に所属しない。 但し、理事長、副理事長、専務理事、常任理事、監事は、委員会に出席して意見を述べることができる。	第25条 役員		理事長、副理事長、専務理事、常任理事、監事は、原則として委員会及び会議に所属しない。ただし、理事長、副理事長、専務理事、常任理事、監事は、委員会及び会議に出席して意見を述べることができる。
第16条		委員会は、委員長が年6回以上招集し、議事録を作成してこれを速やかに事務局に提出しなければならない。	第26条 委員会の開催		委員会は、委員長が年12回以上招集して開催し、速やかに議事録を作成して指定された方法で事務局に提出しなければならない。
第17条		理事長が必要と認めた場合、理事会の承認を得て特別委員会をおくことができる。 特別委員会については、第15条本文を適用しない。	第27条 特別委員会		理事長が必要と認めた場合、理事会の承認を得て特別委員会をおくことができる。特別委員会については、第25条本文を適用しない。
			第7章 次年度予定者会議		
			第28条 次年度予定者会議の設置	1	本会議所は、任意の機関として、次年度理事予定者会議（以下「予定者会議」という）を置くことができる。
				2	予定者会議の設置は、総会で承認された次年度理事長予定者が決める。
			第29条 予定者会議の構成		予定者会議は、総会で承認された次年度理事長予定者の指名を受けた全ての次年度理事候補者又は予定者（以下、次年度理事候補者及び次年度理事候補者を「予定者」という）をもって構成する。
			第30条 権限	1	予定者会議は、当該年度の一切の権限を有しない。
				2	予定者会議は、次年度の本会議所の運営方針、事業計画及び業務の執行案を策定し、当該年度の総会の承認を受けなければならない。
			第31条 招集	1	予定者会議は次年度理事長予定者が招集する。
				2	その他召集の方法は定款33条の規定を準用する。なお「理事長」を「理事長予定者」、理事会を「予定者会議」、「理事」を「予定者」と読み替える。
			第32条 議長及び決議		予定者会議の議長の選出及び決議の方法については、定款34条及び定款35条の規定を準用する。なお「理事長」を「理事長予定者」、理事会を「予定者会議」、「理事」を「予定者」と読み替える。
第5章 褒賞			第8章 褒賞		
第18条		本会はJC運動の昂揚を図るため褒賞を行うことができる。	第33条 褒賞		本会議所はメンバーの資質向上及び本会議所の目的を達成するために褒賞を与えることができる。
第19条		褒賞の対象者は次の通りである。但し、理事及び委員長は褒賞の対象としない。	第34条 褒章の対象		褒賞の対象者は次のとおりである。ただし、理事、議長及び次年度の委員長予定者は褒賞の対象としない。 （1） JC運動に顕著な功績のあった会員 （2） 当該年度の例会及び特別事業に100%出席した会員 （3） 当該年度の例会、特別事業、委員会及び会議並びに世界会議、ASPAC、全国大会、各地区大会等、JC公式行事への出席率が優秀な会員

					(4) その他、褒章要綱に定めた資格を有する会員
	1	J C活動に顕著な功績のあった会員。			
	2	当該年度の例会に100%出席した会員。			
	3	当該年度の例会、委員会並びに全国大会、各地区大会等、J C公式行事に出席の優秀な会員。			
第20条	1	褒賞特別委員会の委員長および委員は理事長が指名し理事会において承認した会員がこれにあたる。	第35条 褒賞特別委員会	1	褒賞特別委員会の委員長及び委員は理事長が指名し理事会において承認した会員がこれにあたる。
	2	褒賞は褒賞特別委員会がこれを審議し理事会の承認を得て対象者を決定する。		2	褒賞特別委員会は、褒賞の対象者を審議し、決定する。
第21条		功績のあった当該年度の理事・委員長に対し感謝状を贈ることができる。	第36条 感謝状		本会議所は功績のあった当該年度の正会員に対し感謝状を贈ることができる。
第6章 会費および 入会金			第9章 会費及び入 会金		
第22条		会費および入会金は次の通りとする。 但し、年度途中にて入金する会員の会費は理事会の定めるところによる。 入会金 金 50,000円 但し、退会者の同一法人から引き続き翌年度迄に入会する会員に対し、入会金を免除することができる。 会費 金 150,000円 特別会員会費は次の通りとする。(終身会費) (但し、特別会費は資格取得年度に納入するものとする。) 会費 金 50,000円	第37条 会費及び入 会金		会費及び入会金は次のとおりとする。ただし、年度途中にて入金する会員の会費は理事会の定めるところによる。 入会金 金 50,000円 会費 金 150,000円 特別会員会費は次の通りとする。(終身会費) (ただし、シニアクラブ入会金は資格取得年度に納入するものとする) 会費 金 50,000円
第23条	1	会費は、年2回前期と後期の納入か、前期2回後期2回の4回分割口座振替納入にするかを選択し、指定の期日までに納入しなければならない。 ただし、分割回数は運営原則申し合わせ事項により任意に設定できるものとする。	第38条 会費の納入	1	会費は、年2回前期と後期の納入とし、指定の期日までに納入しなければならない。
	2	正会員が会員資格規定別表督促手続に従った督促を受けたにもかかわらず会費を納入しないときは除名することができる。		2	正会員が会員資格規程別表督促手続に従った督促を受けたにもかかわらず会費を納入しないときは除名することができる。
第24条		納付期日を経過した会費は、退会の申し出があった場合においてもその徴収を免除しない。また、既納の会費はいかなる事由によるも返還しない。	第39条 会費の未納付		納付期日を経過した会費は、退会の申し出があった場合においてもその徴収を免除しない。また、既納の会費はいかなる事由によるも返還しない。
第25条		新入会員の入会金、当該年度の会費は原則として、入会時に納入しなければならない。	第40条 入会金		新入会員の入会金及び当該年度の会費は入会年度の前期終了時までには納入しなければならない。
第7章 慶弔			第10章 慶弔		
第26条		本会の慶弔は次のとおりとする。	第41条 慶弔	1	本会議所の慶弔の基準は下記の各号のとおりとし、理事長の判断でこれを与えることができる。 (1) 結 婚 正会員の結婚の場合 30,000円 (2) 死 亡 正会員の死亡の場合 50,000円 (3) 正会員の配偶者及び両親、子供が死亡した場合 10,000円 (4) 見舞金 正会員の病気、傷害、災害の場合 5,000円 (5) その他理事長が定めた場合
	1	結 婚 会員の結婚の場合 30,000円			
	2	死 亡 正会員の死亡の場合 50,000円 正会員の配偶者および両親、子供が死亡した場合 10,000円			

	3	見舞金 正会員の病気、傷害、災害の場合、最高5,000円を限度として適宜理事長がこれを定める。			
	4	顧問、特別会員および職員の慶弔に関しては、正副理事長においてこれを定める。		2	顧問、特別会員及び職員の慶弔に関しては、理事長においてこれを定める。
	5	贈与金は適宜相当額の贈与品に替えることができる。		3	贈与金は適宜相当額の贈与品に替えることができる。
	6	その他理事長が必要と認めた場合は、正副理事長において適宜これを定める。			
第8章 会員の届出 義務			第11章 会員の届出 義務		
第27条		会員は、下記事項につき変更を生じた場合には速やかに事務局宛書面による変更届を提出しなければならない。	第42条 会員の届出 義務		会員は、下記の各号に定める事項につき変更を生じた場合には速やかに事務局宛書面による変更届を提出しなければならない。 (1) 職 業 (2) 勤務先 (3) 役 職 (4) 勤務先名称 (5) 勤務先所在地 (6) 住 所 (7) 電話番号 (8) F A X 番号 (9) メールアドレス
	1	職業			
	2	勤務先			
	3	役 職			
	4	商 号			
	5	勤務先所在地			
	6	住 所			
	7	電話番号			
	8	F A X 番号			
			第12章 休会		
			第43条 休会	1	正会員がやむを得ない事由により長期間出席ができないときは、休会することができる。
				2	休会に関する手続及びその他の事項については「会員資格規程」においてこれを定める。
			第13章 雑則		
			第44条 規定の改廃		この規程の改廃は、理事会の決議をもって行う。
附則		本規定は昭和48年3月12日より施行する。 昭和49年12月 3日 一部改定 昭和51年 6月25日 一部改定 昭和51年11月29日 一部改定 昭和52年 1月20日 一部改定 昭和52年12月 6日 一部改定 昭和53年12月 5日 一部改定 昭和54年12月 4日 一部改定 昭和56年12月 1日 一部改定 昭和57年12月 1日 一部改定 昭和59年11月29日 一部改定 昭和60年 8月20日 一部改定 昭和63年11月24日 一部改定 平成 3年11月26日 一部改定 平成 5年11月12日 一部改定	附則		この規程は一般社団法人札幌青年会議所の設立登記の日から施行する。

		平成 6 年 1 1 月 2 5 日 一部改定 平成 1 5 年 1 2 月 1 日 一部改定 平成 1 8 年 1 2 月 1 日 一部改定			
--	--	---	--	--	--